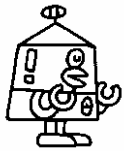


## なぜ、花は目立つきれいな色をしているの



花の役目は、たねをつかって子孫を残すことなので、花粉を運んでくれる虫をよぶために、目立つ色をしているのだよ。

たいていの花は、虫に花粉を運んでもらってたねができる

花には、ふつう、めしべやおしべがあります。花の役目は、おしべの花粉をめしべの頭（柱頭）につけてもらって、たねをつくり、子孫を残すことだからです。

たいていの花は、同じ種類の別な花の花粉をもらって（受粉する）、たねをつくるようになっていきます（アサガオなどのように、同じ花の中で、めしべが花粉をもらって、たねができる花もあります）。

花は動き回れないので、花粉を虫などに運んでもらわなければなりません（虫ばい花という）。そのため、虫がを見つけやすいように目立つ色や形の花びらをもち、強いにおいやみつを出して、虫を引きよせます。そして、みつをすったりなめたりすると、虫の体に花粉がつき、別な花にいったとき、花粉がめしべの柱頭につくようなくみになっているのです。

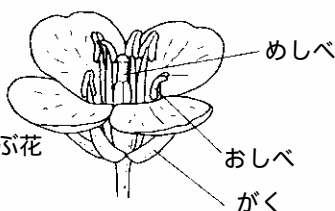
花粉を風が運ぶ花（風ばい花）は、花びらがなく目立たない

イネやトウモロコシにも、花があります。おしべやめしべはありますが、たいてい花びらはなく、色も地味で目立たない、花のように見えない花です。

これらの花の花粉は、軽くて風に飛ばされて遠くまで散り、めしべにくっついてたねをつくります。これらの花は、虫をよびよせる必要はないので、花びらはなく、みつやにおいは出しません。スギやマツの花も、風が花粉を運ぶなかまです。

アブラナ

虫が花粉を運ぶ花  
（虫ばい花）



イネ

風が花粉を運ぶ花  
（風ばい花）

